平成29年度　西東京市立ひばりが丘中学校　学校自己評価表

学校教育目標	広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして　・自ら学ぶ　・豊かな心　・夢の実現
5段階評価	5：特によい　4：良い　3：おおむね良い　2：改善の余地あり　1：大いに改善あり
目指す学校像 【目指す学校像】 【目指す生徒像】 【目指す教師像】	●生徒一人一人が主役となれる学校　●生徒、保護者、地域から信頼され愛される「明日が待たれる学校」 ●自己実現に向け、自ら考え進んでやりぬく心と体をもつ生徒　●自他を尊重し、正しい判断に基づき、責任を重んじ協力する生徒　●伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し、広く社会に貢献しようとする生徒　●「文武両道」に励む活力ある生徒 ●分かりやすい授業ができ、生徒の学ぶ意欲を引き出す教師　●生徒の声に耳を傾け、共感的に理解し励まし支援する教師　●時に優しく、時に厳しく、毅然とした指導を遂行する教師　●生徒の良さを引き出し、生徒の自己実現を支援する教師
本校の実態と課題	○西東京市学校教育研究奨励事業研究指定校を受け、「主体的に考え行動する力の育成」をテーマに、全教員が主体的・対話的で深い学びとなる授業づくり、生徒会、一斉委員会等を意図的・計画的に実施してきた。その結果、生徒は授業では、話し合い活動を通して理解を深められたり、学校生活では、自分からあいさつができる生徒に成長してきた。自己肯定感が向上した生徒が増加した。今後は自分の考えを分かりやすく相手に伝える力の育成が課題である。 ○都からスーパーアクティブスクールの研究指定を受け、全ての生徒の体力向上を図るため、元オリンピアン大石博暁氏による「U15期トレーニング法の実技指導」や株式会社明治の方による「食育からの体力向上についての講演会」、体育行事委員の生徒による「全校生徒ぐるぐる握力トレーニング」の実践等を実施した。体力向上は単に体力向上だけでなく、学習面や生活面でも利点があることや体を動かす楽しさを学べた。今後は取組成果について分かりやすく外部へ発信することが課題である。 ○おやじ倶楽部による職業講話、部活動支援員の実施、トライ＆チャレンジの保護者協力等、学校を支える多くの方々の協力をいただいた。今後も引き続き、気持ちよく相互互恵関係の構築を図り、学校・保護者・地域の連携を継続していきたい。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標 中間	取組指標 年間	成果指標 中間	成果指標 年間	取り組みと分析	改善策
確かな学力の向上	「自ら学ぶ」 生涯に渡り、人生を豊かに切り開いていくことのできる「確かな学力」を育む	各教科における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	授業中の確認テスト等の充実、定期考査前の補習教室や個別支援学習、長期休業中の補習を充実させる	3	4	4	3	教科の特性に応じ、授業内で学習内容の定着を図るテスト等を実施してきた。また、定期考査前の補習教室は、考査1週間前から実施していたが、同じ日に複数教科実施せざるを得なく、どちらも参加したい生徒が迷うなど生じてしまった。こうしたことから、後期は補習教室への評価が平均15％落ち、55％程度の評価にとどまった。	定期考査前の補習教室の実施は1週間前は妥当と考えているが、同じ日に複数教科参加したい場合は、限られた時間内で移動するなど、工夫して活用するよう理解を求める。さらに、普段から授業で分からなかった内容を定期考査前まで引きずらず、普段から昼休みや放課後に質問できることを生徒に伝達していく。
		豊かな言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等の育成と課題解決できる能力の向上を図る	アクティブ・ラーニングを活用した授業検証、定期考査、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」、「全国学力学習状況調査」等の結果をふまえた組織的な授業改善	3	4	4	4	本校のアクティブ・ラーニングの研究は、全教科で組織的に研究・検証を進められた。各教室にミニホワイトボードを設置し、各教科等の班活動で活用した。ボードを使うだけで、話し合いが楽しく主体的な授業になった。都の調査では、特に数学では「取り出す力」が昨年度の都の平均よりも今年度の都の平均よりも16％も向上した。他教科でも向上値が＋である。	保護者学校評価では、アクティブ・ラーニングの授業を通して、生徒の思考・判断・表現力の向上に繋がった実感までには至っていない。一方、2年間の研究で分かったことは、「相手の考えを最後まで聞き、その内容を理解しようとしたり、相手に伝える際、どのように説明すれば相手に伝わるか工夫して発表する力」を身に付けていくことが今後の課題である。公開授業等で工夫を図りたい。
			学校図書館の活用と朝読書やブックカフェの実施により、全生徒が活字に親しめる取組を推進する	4	4	4	4	今年度、文部科学省より、「優れた読書活動の推進」を図っているとして表彰された。朝読書は、年間通して、どの学級もとても静かな環境で実施できていた。また、ブックカフェは2年目になるが、企画・運営は図書部・図書委の生徒が行った。全校生徒への図書の楽しさや深さを伝えられ、文武両道の精神を深められた。	図書館司書教諭の不在日に昼休み図書室開放を行うことで、さらなる読書活動の推進を図るため、保護者の方による「昼休み図書室開放支援員」の設置を検討している。また、ブックカフェの取組のPDCAサイクルに基づいた見直しを通して、生徒の主体的な思考力・判断力・表現力の向上を図りたい。
			アクティブ・ラーニング研究指定校、スーパーアクティブスクール（体力向上推進校）、オリパラ教育アワード校といった3つの研究指定を受ける中、外部人材を活用した授業づくりを推進する	3	4	4	5	1月のアクティブ・ラーニング研究発表会では、東京大学酒井教授による「脳科学の観点からみた藤井4段の強さの秘訣」についての講演、体力向上推進校として、元オリンピアン大石博暁さんによる「U15期のトレーニング法」の実演、ヒッポファミリークラブの方による海外の留学生を招いた国際交流授業、落語家桂伸治師匠による落語講演会の実施等、外部人材を生かした授業を展開できた。	教員とはちがう世界で生きる外部人材の活用は、日頃の授業では聞けない講演や実演ができ、生徒が心身とも成長できる一助となる。広く国際社会を創造性豊かに生きる人材育成を目指す本校にとっては貴重な教育活動の場である。来年度も引き続き、継続した講師派遣をお願いしていきたい。
豊かな心の育成	「豊かな心」 全教育活動を通して、「心の教育」を推進し、人権教育・道徳教育を充実させ、互いの生命と人格を尊重する「豊かな人間性」を育む	道徳の時間を要として、全教育活動を通して、自他の立場を尊重でき、自己肯定感を高められる生徒の育成を図る	人権感覚・人権意識の向上を図るため、人権カレンダーの作成や生徒会や生活委員会を主体とした朝のあいさつ運動の推進を図る	3	4	4	5	保護者学校評価にある「我が子はお世話になっている方や友達に自分からあいさつができる」と答えた保護者が22％も向上し、分からないと答えた解答が5％にとどまった。生徒会や生活委員が主体となって取組んだ朝のあいさつ運動等の効果だととらえている。	人権カレンダーの活用の見直しを図る。ただの日めくりカレンダーのように掲示されて終わりではもったいない。また、ひばり月間を形骸化せず、自分たちの生活の意識の向上を目的とした、目標のための目標とならないよう、簡素化していく。
			道徳授業地区公開講座や道徳の時間では、内容項目に沿った生徒の心に残る教材を通して、人格形成を図る	4	4	3	4	10月に実施した道徳授業地区公開講座では、土曜開催とあって、半数以上の保護者様にご参観いただいた。1年生は江戸しぐさを学び、それをもとに「ひばりしぐさ」を各班で考案、2年生はSNSをテーマに、相手の思いや立場の理解を深めた。3年生は「進路は団体戦」をテーマに集団の中の自分を客観視する授業を実施した。道徳心を耕し、深め、培うことにつながった。	道徳の教科書だけに頼らない、旬な話題を取り入れた教材を教師が作成している。1つ1つの授業は真剣に受ける生徒だが、心に響き、学んで得た道徳力を日常生活に移すことができる、身に付けることが生徒の育成を目指したい。そのために、生活指導では、道徳授業で学んだことに帰着させる指導を心がけていきたい。
			厳しさと温かさを忘れず「正しい規範意識」を育て、「だれもが楽しいと思える学校生活」を送れる凛とした生徒を育成する	4	4	3	4	良いことと悪いことの分別をしっかりと全教員がぶれず に指導しようとしてきた。その上で生徒が自分たちで考え、ルールづくりを行い、正しい規範意識を育てる工夫を行った。また、程度に関係なくいじめに繋がるだろう案件を吸い上げ、「いじめ防止対策委員会」と「生活指導部会」で共通理解を図り、迅速な対応を行えた。	SNSに関するトラブル、不要な書き込み等を回避するため、道徳の時間や学活、あるいは各教科で、豊かなコミュニケーションを通して、自分の気持ちや思いを整理して、正しい言葉で表現できる生徒を育成すべく、道徳教育推進委員の教師と生活指導主任等が連携し、組織的に指導できる体制を構築していく。
夢の実現	「夢の実現」 自分の将来の希望をもち、その実現に向けた努力を惜しまない生徒育成する	自分の住む地域と自然に愛着をもち、伝統と文化を尊重し、社会に貢献する心を育成する	ボランティア精神を培い、ボランティア活動を通して、地域や学校を自分たちで大切にできる無償の精神を育成する	3	4	3	4	保護者学校評価では、「11月トライ＆チャレンジ（全校生徒による街の清掃活動）や有志による谷戸ふるさと祭り参加等ボランティア活動に積極的に取り組んでいると感じる」と答えた保護者が12％増加した。また、トライ＆チャレンジに保護者様も参加いただき、事後アンケートを参加保護者様からいただき、次年度の取組に繋ぐことができた。デイサービス訪問では大変喜ばれた。	トライ＆チャレンジが全校体制で実施してから2年目となるが、保護者の参加を増やしたい。また、拾った場所でまたゴミが捨てられている現状から、全校が一斉に行う方法ではなく、学年別で実施するなど、方法の見直しを次年度行う必要がある。
		中学卒業後の進路を自分の問題としてとらえ、キャリア教育を通して、望ましい職業観を育成し、進路選択できる生徒を育成する	おやじ倶楽部の職業講話、職場体験、進路学習等を通して、自分をみつめ、自分を知ることで、具体的な目標を設定し、その実現に向け、努力を惜しまない生徒を育成する	3	4	3	4	今年度からおやじ倶楽部の方による2年生職場体験前の事前講話と3年生卒業前の進路講話が新設された。教師とは異なる世界で生きる方による講話は生徒の心に響く授業であった。「夢の実現」に向けた取組を実施できた。	おやじ倶楽部の方による講話等のイベント以外の普段の進路学習・進路指導では、3年生の進路指導を行う前に、段階的に行う必要がある。各学年に一任せず、進路生き方部と各学年が連携し、本校の進める進路指導を実施することで、生徒や保護者が進路に対し、1年生保護者会等で、卒業後の進路選択や現段階での入試の制度等について伝えることで、無用な不安を与えない配慮を行いたい。
		学校生活の中で、すべての生徒が自分の長所をみつけ、伸ばし、集団の中で自己の役割を果たす生徒の育成	学校行事、学年行事、委員会活動、係活動等への自発的参加により、本校の生徒の一員である自覚をもち、生きがいのもてる生徒を育成する	4	5	4	5	運動会や合唱祭、ひばり文化の日といった学校行事、校外学習、球技大会といった学年行事など、生徒による実行委員会の組織が先頭に立ち、行事を盛り上げるなど、生徒の自主性、生徒の自治組織を大切にした指導が評価された。	生徒会が企画した笑顔の花を満開にしよう運動（学級全員で朝のあいさつ運動）や3学期のノーチャイムデーの実施など生徒の発想を実現させるため、今後も惜しまない指導・助言を与えていきたい。